

校長のあいさつに代えて

みなさんの課題解決の進捗状況は？

令和6年7月24日(水)

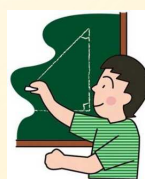
佐賀市立金立小学校 副島 和久

金立小学校 授業づくりチェックシートを用いた

普段の授業の不断の見直し

1

普段の授業



見直し→

普段の授業

小グループ研

見直し→

普段の授業



見直し→

目指す子どもの姿

先生方自身の

個別最適な学び
と
協働的な学び

本日が大切な機会
の一つです。

児童に身に付けさせたい資質・能力を再確認 その1

2

- ア 各教科で身に付けるべき資質・能力（学力）
三つの柱 ● 知識及び技能 ● 思考力、判断力、表現力等
● 学びに向かう力、人間性等

イ 本校が目指す子どもの姿から

かしこい子

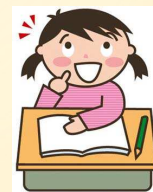
授業はもちろん、学校や家庭などで出合ういろいろな課題や問題を「自分の事」として捉えることができる。
一人で考えるだけでなく、友達や家族、先生などとも進んで関わりながら考えることができる。
自分やみんなにとってのよりよい判断をしようとする

児童に身に付けさせたい資質・能力を再確認 その2

3

ウ 認知能力と非認知能力

- 認知能力 俗にいう「学力」
- 非認知能力



「やる気」「粘り強く取り組む」「集中する」「協力する」
「自制する」などなど

→正しい姿勢、話の聴き方、言葉づかいといったようなことをきちんと身に付けさせることが、「非認知能力」にもよい影響をもたらします。

「金立小 学習の約束」「金立スタンダード」 1学期の各学級での定着状況は？

授業改善を図るために、教師に必要な要件は？

4

- ・それぞれの教科・領域において育成すべき資質・能力についての正しい理解
- 公教育である以上、拠り所は学習指導要領 **自らの経験や信念だけでは×**

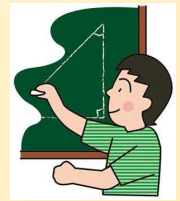
- ・授業を見る目 児童を見る目



本当に



- 児童の学びの内実を見取ること 育成すべき資質・能力は身に付いているか？
- 児童の学びの内実を (自らの) 指導と関わらせて考えること



- ・授業改善の視点についての理解 **←ここに教師の学びが必要**

- 主体的・対話的で深い学びの視点 **個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実**

先生方が取り組まれている課題の中から

5

子どもが取り組みたいと思える課題の提示、導入の工夫
学習の見通しがもてるようなめあての設定

ペア活動やグループ活動を取り入れ、児童が考えを伝えることができる場をつくる。
児童が主体的に活動できるよう、場の工夫を検討して授業に臨む。
児童同士の対話的な活動を仕組む。→ペアやグループなどできれば子どもたちが選んで形態を決めることができるようにしたい。

- 設定した自らの課題解決のための情報収集が必要
- 『設定する』『取り入れる』は入り口であり、その後の見通しが必要

1 学期の振り返りと2 学期の見通しに向けて

6

1. 現段階の考えでよいので、課題解決の手立てをできるだけ具現化する。「検討して」「工夫する」「ICT利活用」だけではNG
2. 「設定する」「取り入れる」などが手立ての場合は、あくまでもスタートに立っただけなので、その先を考えて、具現化する。
3. 自分自身の授業構想や指導法についての課題に特化する。(児童の実態を踏まえるのは大切であるが、ここに書くのは自分自身の課題)
4. 今ある知識で何とかしようと思わないで、本を読んだり、資料を探索するなどして、情報収集をする。
5. 課題の解決状況に応じて、解決の手立ても変化してもよいことを常に考えておく。
6. グループ研では、自分が取り組んでいることに「他者のまなざし」を入れるよい機会なので、見通しをもって取り組む。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

参考

「主体的な学び」とは

・興味・関心 ・自己のキャリア形成との関連付け

→学習課題を生徒が「自分ごと」にする工夫 リアルな課題、課題発見

Ex. 生活との関連、児童の興味との関連、児童の疑問から、クイズ的要素、揺さぶり 等

見通し → 粘り強く取り組む → 振り返り → 次につなげる

単元レベルで 学習課題解決の意識 学んだことの価値や意味の自覚

題材レベルで small step

当然、1 単位時間も



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

参考

「対話的な学び」とは

- ・子供同士の協働
- ・教職員や地域の人との対話
- ・先哲の考え方

手掛かりにして



自らの考えを広げ深めることができるか？

→学習形態の工夫、教科の特質に応じた言語活動、I C Tの効果的な活用
まとめ、振り返り、言語活動を促す学習集団づくり（支持的風土の醸成）

「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習活動について考える際の3つのポイント

参考

- モチベーション(意欲)
 - ・やることに必然性はあるのか
 - ・やりたいという意欲を喚起しているか
- スキル(技能)
 - ・やり方は分かってるのか
 - ・やり方について指導しているか
- コンテンツ(内容)
 - ・生徒にとって魅力のある内容か
 - ・意味ある内容を準備しているか



キーワードは「やりたい、やれそう、やってよかった」

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

参考

「深い学び」とは

- 習得・活用・探究という学びの過程の中で



- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて



- 知識を相互に関連付ける → より深く理解する
- 情報を精査する → 考えを形成する
- 問題を見いだす → 解決策を考える（問題発見・解決）
- 思いや考えを基に → 創造する



→ 新たな問い 問題解決的な学習から探究的な学習へ

本日の振り返りが

2学期からの課題解決の取組の
よき指針となることを期待しています。

先生方お一人お一人の主体的な取組と教師
自身の深い学びが得られることを楽しみに
しています。

